

周南市美術博物館開館30周年記念 山口放送開局70周年記念 香美市立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアム開館30周年記念

やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ

12月28日(日)まで開催中

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 月曜休館

観覧料

■一般:1,300円(1,100円) ■大学生:1,000円(800円)
()内は前売および20名以上の団体料金

18歳以下
無料

*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料



「詩とメルヘン」1978年8月号表紙絵
「ついにぼくは夜明けの光の矢をにぎったぞ」

©やなせたかし
(公財)やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団蔵

やなせたかしと雑誌「詩とメルヘン」

雑誌「詩とメルヘン」は、1973年にやなせたかしの責任編集で創刊されました。この1973年は、やなせにとって「人生のひとつの節目」の年でした。「詩とメルヘン」の創刊のほか、絵本『あんぱんまん』を発表した年でした。やなせが長年培ってきたものがようやく花ひらく時期だったのではないのでしょうか。

山梨シルクセンター(現・サンリオ)から出版された雑誌「詩とメルヘン」は、1973年から2003年まで30年間続けた、やなせのライフワークともいえるものでした。季刊から隔月刊、さらに月刊となり、終刊までに増刊号も含め通算385号を刊行しました。人との出会いによって道が開けることがあります、や

なせにとって山梨シルクセンター(現・サンリオ)の創業者、辻信太郎との出会いは詩人としての転機でした。

創刊号の編集前記に、やなせは、「この本はちょっとふしぎな本」「非常に個人的な偏見と趣味に偏してつくられています」と書いています。読みやすいように文字を大きくし、対象の読者は10才から90才くらいまで。プロの詩人だけでなく、大部分は全くの無名の人たちの詩をガリ版刷りの同人誌や手書きの詩集から集めたそうです。

「詩とメルヘン」の表紙はすべて編集長のやなせ自身が手がけました。「必ず何か案を入れることと、カップルをどこかに描き込むこと」を決めていたといいます。また、表紙には一行フレーズが入りました。1976年からは表紙絵についての想いも「表詩記」として綴りました。左の作品、一行フレーズは「ついにぼくは夜明けの光の矢をにぎったぞ」。海からの日の出をえがこうと案を練り、空へうちあげる光の矢という発想にいたるまで半日。描きはじめてからも案がいろいろかわり、色をぬっているうちに光の矢をにぎる絵になったといいます。

やがて読者からの投稿も始まり、やなせは編集者として毎月届くたくさんの投稿作品の中から誌面に掲載する詩を選び、すべてに評をつけました。また巻頭の「編集前記」と巻末の「編集後記」では読者への思いとともに編集方針を綴りました。そしてイラストレーターとして、表紙絵のほか、目次などに使用する小さなカットもすべて手がけました。さらにメルヘン作家としては、大人向けの小説でもなく、子供向けの童話でもない「メルヘン作品」を1980年までほぼ毎月創作しました。漫画家としても読者ページにバラバラに配された4つのカットをつなぎ合わせると、起承転結のある4コマ漫画になるような工夫もしました。雑誌づくりのすべてに関わることで、自分の理想の雑誌を目指したのでしょうか。

「詩とメルヘン」の魅力は、誰でも自由に投稿することができ、その詩にやなせが言葉や絵をつけ、読者としては自分が書いたものが認められたと実感できること、また「詩とメルヘン」を通じてコミュニティが広がることです。さらにこの雑誌に投稿し賞を受賞したことをきっかけに、デビューした作家やイラストレーターも多くいました。

「詩とメルヘン」の中で読者とのコミュニケーションを大切にしたりやなせ。そこには、叙情的な詩や絵への情熱と、それを広くみんなに知ってもらおう、育てていこうという並々ならぬ熱意が感じられます。(周南市美術博物館学芸員 松本久美子)

施設メンテナンスのため、12月29日(月)～令和8年3月31日(火)まで、臨時休館します。

美術博物館ホームページはこちら



やなせたかし

人生はよろこばせごっこ

主な展示作品を紹介します。

©やなせたかし
(公財)やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団蔵

第1章 やなせたかし大解剖

漫画家を志し独立しましたが、様々な仕事を依頼されるようになったものの、本業の漫画では代表作がなく苦悩する日々でした。夜、仕事場で自分の手を懐中電灯で照らしてみたら、血の色が紅くてきれいに見えたそうです。命の力強さを感じて作った詞が「てのひらを太陽に」でした。作曲はいずみたく。いずみたくとは、永六輔に声をかけられ舞台美術を担当したミュージカル「見上げてごらん夜の星を」で知り合いました。「手のひらを太陽に」は、NHK「みんなのうた」でも取り上げられ、のちには教科書にも掲載され、やなせの代表作となりました。

「てのひらを太陽に」 制作年不明



第2章 漫画 人とのつながり

漫画家として一念発起して懸賞に応募し、1967年「ボオ氏」で週刊朝日マンガ賞を受賞。ボオ氏は帽子を深くかぶった顔の見えないキャラクター。「帽子」と「名前のない某氏」をかけています。「ボオ氏」は、その後、絵本や「詩とメルヘン」のカットなど、やなせの様々な作品にも登場するキャラクターとなりました。



「ボオ氏」より「鳩とトビウオの巻」 1967年

第3章 詩 うたうように生まれる

詩人としてのやなせは、1963年に第一詩集『こどもごころの歌』を自費出版しています。1966年に山梨シルクセンター（現・サンリオ）の辻信太郎社長に書きためていた詩の出版を提案され、刊行された詩集『愛する歌』は詩集としては異例の大ヒットとなりました。難解な言葉を使わず、誰にでもわかる表現で感情をうたったやなせの詩は、若い女性を中心に多くのファンを獲得しました。

「絶望のとなりに」 制作年不明



第4章 絵本とやなせメルヘン

1967年、文化放送のラジオドラマの脚本のピンチヒッターとして執筆した「やさしいライオン」。同人誌に描いた漫画をもとに物語を一晚で作り上げたといえます。この物語は、その後ミュージカル、アニメ映画にもなり、さらには1975年に絵本として出版され、やなせの代表作のひとつとなりました。



『やさしいライオン』 1975年

第5章 アンパンマン誕生

アンパンマンは、空腹で困った人を見つけると、自らの顔を食べさせて救う正義のヒーロー。アンパンマンが登場する作品は、絵本で200作品以上、テレビアニメの放送も35年以上、アニメ映画は36作品。長年にわたり子どもたちに愛されつづけています。

「夕陽の決闘」
1998年

やなせうさぎは、やなせが自画像のかわりに描いたキャラクターです。ひつじ年のやなせですが、羊より兎の方が描きやすかったのと、臆病で逃げ足が速く、闘争心が無いイメージの兎がいいなと思い、サングラスをかけた「やなせうさぎ」になったそうです。



「やなせうさぎとアンパンマン」 制作年不明

周南市美術館
カフェテラスまど

展覧会 冬の限定 メニュー

2025.12.28まで



こじゃんとセット 500円(税込)

～ホットゆず茶にきんぴり
ミレービスケットを添えて～

やなせたかしの
出身地高知県にちな
んだセットをご用意
しました。



冬の贅沢アイス 500円(税込)

～パニライスにチョコソース
ミックスベリートッピング
プチガトーショコラ添え～

周南市美術館
開館30周年を記
念した旗をあし
らってみました。



やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ イベント

学芸員による ギャラリートーク

申込不要

日時／12月13日(土) 14:00～

※観覧券をお求めの上、展示室にお集まりください

ひはく 美博クイズ～!〈143〉 もんだい

やなせたかしが自画像がわりに描いた
キャラクターは、ある動物をモチーフに
しているよ。どの動物だろう？

① いぬ ② うさぎ ③ ひつじ

ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

周南市美術博物館開館30周年記念・山口放送開局70周年記念
香美市立やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム 開館30周年記念
やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ
～12/28(日)

防府

毛利博物館 ☎0835-22-0001

特別展「国宝」 ～12/9(火)

企画展「毛利家のお正月」
12/12(金)～1/25(日)

山頭火ふるさと館 ☎0835-28-3107

種田山頭火没後85年記念企画展
「現代によみがえる山頭火」
～12/14(日)

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

コレクション展示
大きな日本画／生誕100年 田中米吉／
シベリア・シリーズⅢ 収容所での生活
～12/25(木)

中原中也記念館 ☎0839-32-6430

企画展Ⅱ「中也、この一篇——
「汚れつちまつた悲しみに……」」
～4/19(日)

萩

萩博物館 ☎0838-25-6447

萩駅・東萩駅開業100周年記念企画展
「萩に鉄道がやってきた！
—鉄路でつながるニッポン—」
～12/7(日)冬期新収蔵品展「明治時代の人と書」
12/20(土)～1/31(土)

宇部

ときわ湖ホールアートギャラリー ☎0836-51-7057

Why彫刻？
UBE現代日本彫刻展 再発見Ⅱ ～3/1(日)

長門

香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

香月泰男の春・夏・秋・冬 ～1/12(月・祝)

下関

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

特別展
「手紙で迎える毛利家の喜怒哀楽」
～1/18(日)

～ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館～

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

■ 9時30分～17時(入館は16時30分まで)

■ 観覧料：一般200円(160円) 学生等100円(80円)

()内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料

■ 休館日：月曜日 ※12/1(月)～1/16(金)は展示替え等のため休館

次回展覧会の
お知らせ

※次回は1月17日(土)からです。

企画展

中・小展示室 1月17日(土)▶3月8日(日)

Matsui Reikoh

松井黎光 書作展 一書の歩み—



「續(ぞく)」2025年

静と動が交錯する墨の世界。筆を走らせ生まれる気迫と余白に宿る無限の思い。書は心のかたちを映す鏡であり、言葉を超えた表現でもあります。

本展では、書家・松井黎光氏のこれまでの歩みと新たな挑戦を込めた作品を展示します。一筆一筆に込められた思いを感じながら、書の世界をご堪能ください。

作家による
作品解説
[手話通訳付]

1月17日(土)

9:30～

正午までは
入場無料

〈略歴〉

1943年 東京都生まれ
1967年 山口県徳山市
(現周南市)に転勤
1975年 藤井琅玕に師事
書を志す
1986年 垣替玉舟に師事
2004年 創玄展 秀逸

2007年 創玄展 特選
2010年 矢田照濤に師事
2015年 創玄展 審査会員
2016年 毎日書道展 毎日賞
2018年 創玄現代書展 入選
2022年 周南文化協会文化功労賞
本名、松井武夫 一步書道会主宰

常設展 同時開催

大展示室

尾崎正章常設展「人をみつめて」



尾崎正章(1912～2001)は、椅子に腰かける女性をはじめ、港で働く人々、灯台の下で語らう子どもたちなど、身近な人物を多く描いています。人をみつめ、印象的な瞬間を捉える尾崎のまなざしを、作品を通して感じていただければと思います。

「黒衣」1968年 油彩・キャンバス

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>

これを讀まれていた皆さんはどんな一年だったでしょうか。ライフステージの変化、出会いと別れ、新たな趣味の開拓や課題への挑戦。誰しもが多少なりとも前年とは変化のあった年だったと思います。今年の自分の頑張りをたたえて、新年を迎えたいですね。

そして、来年のあなたに心躍る出会いがありますように、文化会館はさまざまな催しを準備中です。どうか花島をお見逃しなく！

(舛本)

ミニコラム
ガス燈

あつという間に今年も師走です。師走とはもともと旧暦の12月を意味し、一説では、年末になると師(お坊さん)が法事のため忙しく走り回ることからそう呼ばれるようになったそうです。実際、お世話になった方への挨拶回りや大掃除、クリスマスのイベントや新年を迎えるための準備で大忙しの月ですね。

思い返すと小学生の頃は通学、授業、習い事の繰り返しで毎日、早く大人になりたいのに一年はなんて長いだろうと辟易したものです。いざ大人になった今、時間の体感倍速で感じられます。物事を多角的に捉えられるようになり、人生経験を重ねる中で日々の充実度がそう感じさせるのかもしれない。ちなみに私たち職員は花島の校了を迎えるたび「もう今年が終わってしまおう！」と嘆くのが常でした。